

妹もおんなし
名前なのよ〜



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



笑った人は
おっちゃん
おばちゃんね

編集後記 おふくろさん

5月といえばゴールデンウィークです。

カレンダーの5月4日「みどりの日」を見るたびに、「五月みどり」を連想してしまうのは僕だけでしょうか。五月みどりさんが着るシャツは決まって黄緑色。シャツ黄緑、サツ黄緑、五月みどり——バンザイ!

そして5月5日は「こどもの日」。この日は子どもだけのための祝日と思われがちですが、「国民の祝日に関する法律」では「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」と定められています。すなわち、「母への感謝」も込められた日なのです。(^_^)!

僕が子どもの頃、森進一さんの「おふくろさん」という歌が流行していました。その一節です。

「雨が降る日は傘になり

お前もいつかは世の中の傘になれよと教えてくれた」



おふくろさん(作詞:川内康範)より
1971年5月5日発売

当時の僕は小児喘息で学校を休みがちな体の弱い子どもでした。特に夜は発作がひどく、横になることもできず、母が一晩中背中や胸をさすって给我していました。早朝から豆腐屋の仕事があつたにもかかわらず、母はほとんど眠らずに寄り添ってくれていたのです。僕はその母の姿と、あの歌詞の情景を重ねていました。雨の日には傘となり、濡れないように身を挺して子どもを守る存在——それが僕にとっての母でした。(> _ <)



人は成長するまでに、両親はもちろん、多くの人に支えられて生きています。そして就職すると「社会人」と呼ばれますが、それは今度は自分が社会へ恩返しをする立場「世の中の傘」になるという意味だと僕は解釈しています。自分でお金を稼ぐことがそのまま社会人ではないと思っているのです。「人のために動く」と書いて「働く」。この漢字が日本で生まれたことに、どこか誇らしさを感じます。子どもが成長し、何かを贈ってくれるのも嬉しいものですが、何より嬉しいのは社会人として懸命に生きている姿を見ることです。



それは会社にとってもいえるのではないのでしょうか。部下の自立を願う気持ちは共通しているからです。4月8日東京商工リサーチは、2025年度の「人手不足」倒産が、過去最多を記録したと発表しました。その内訳を見ると「人件費高騰」が前年度比1.7倍増、次いで多いのが従業員の退職で業務に支障を来した「従業員退職」で1.4倍増。従業員が退職することで倒産に至るという残念なケースが増えているのです。そこで経営者や管理職の方に思い返してほしいのは「勤め人にとって最大の環境は上司」ということ。



表紙の写真にある藤の花は、華やかすぎず控えめすぎず、僕の好きな花です。しかし藤は藤棚がなければ美しく咲くことができません。藤棚という手間をかけた「支え」が無ければ、途中で折れたり絡まったりしてしまうそうです。

ほったらかし、任せっぱなしでは美しい花が咲かないのは人も同じ。本人の努力だけではどうしても限界があります。適切な支えがあってこそ、伸びていくものではないのでしょうか。家庭や会社、社会の役割は、この藤棚のようなものではないかと思うのです。

藤棚の下は日差しをやわらかく遮り、まるで日傘のかわりをして给我しているよう。そんな藤棚の下で初夏の風に揺れる藤の花を見ていると、心がほどけていくようです。人が藤棚に惹かれるのは、その花の表面的な美しさだけではないように思います。



日傘みたい

そういえば、うちの母は五月みどりさんと同世代。いつの間にか日本人の女性の平均寿命に迫っています。その母ですが、「母の日」のプレゼントにはいつも悩まされています。何を贈っても、決まって「私のことはな〜んも心配せんでいい。〇〇さんを大切にしてくれ。仲良くな。」と言うからです。(〇〇さんは、僕の家内の名前です)僕がいくつになっても、「おふくろさん」は、宮崎の地から届かぬ手で僕の背中をさすって给我しているようです。

つんにや!
正解は、
「おふくろさん」



My Mother の和訳は、「お母さん」ネ

アヴニール労務事務所
未来は変えられる! **avenir**